

平成29年度 麻生中学校 「学校をよりよくするためのアンケート」結果考察

1 家庭学習の習慣化

保護者	お子さんは、毎日時間を決めて家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。
生徒	月曜日から金曜日、家庭学習を1日1時間30分以上行っている。
教職員	生徒の家庭学習の習慣が身に付くよう指導の充実を図った。

昨年度の結果と比較し、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が9%、教職員の割合が20%増加した。各学年での工夫した取り組みが家庭学習の習慣化につながってきていると考えられる。しかし、保護者の回答は「とてもそう思う」「そう思う」が僅かだが減少しており、課題として残った。「毎日時間を決めて」という質問の言葉が影響しているとも考えられるので来年度は質問の言葉を検討する。

2 望ましい生活習慣

保護者	お子さんは、テレビやビデオ、DVDの視聴やゲーム等の時間を決めるなど、家庭での決まりを守って生活する習慣が身に付いている。
生徒	月曜日から金曜日、テレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたりしている時間が1日2時間以下になるようにしている。
教職員	生徒に望ましい生活習慣が身に付くよう指導の充実を図った。

昨年度の結果と比較し、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合が減少した。保護者の回答も生徒と同様であり、「全く思わない」は4%増加している。家庭で、テレビやビデオ、DVDの視聴やゲーム等の時間が増加していると考えられる。質問1で家庭学習の習慣が定着しつつあることから生徒の睡眠時間が減少しているのではと健康面が心配である。次年度は、学習面と健康面から望ましい生活習慣が身に付くよう家庭と連携して努めていきたい。

3 読書の習慣化

保護者	お子さんは、家や学校で読書をする習慣が身に付いている。
生徒	読書タイムや家読（うちどく：家での読書）に意欲的に取り組んでいる。
教職員	読書タイムを有効に活用し、生徒の読書習慣が身に付くよう指導した。

昨年度の結果と比較し、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が4%、教職員の割合は32%も減少した。学習面に力を入れ、読書タイムをドリルタイムに変更したことが多かったことが原因の一つと考えられる。来年度は、学習と読書のバランスをとって取り組ませ改善を図りたい。

4 清掃の習慣化

保護者	お子さんは、家庭で身の回りの整理・整頓や清掃などを行っている。
生徒	清掃に意欲的に取り組んでいる。
教職員	生徒と共に清掃活動を行ったり、必要に応じて適切な指導を行ったりした。

清掃活動への取組については、「とてもそう思う」と回答した教職員の割合が14%増加し、93%の生徒が清掃に意欲的に取り組んだ。生徒会が中心となって自らの取組を改善するために話し合い、「無言清掃」「集中清掃」等を推進していったことが結果として表れたといえる。家庭での実践も少しずつではあるが増加している。次年度も、学校全体で取り組ませていきたい。

5 規範意識

保護者	お子さんは、学校の決まりや約束を守って生活している。
生徒	学校の決まりや約束を守って生活している。
教職員	生徒が学校の決まりを守って生活できるよう指導した。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒，保護者の割合は合わせて95%と高い数値を示している。昨年度の結果と比較しても「とてもそう思う」という回答が，保護者・生徒・教職員ともに増加している。「麻生中A B C D」の取り組みが規範意識を高めることにつながっていると考えられる。一人一人の規範意識が高く，中学生らしい落ち着いた生活を送ることができるのが本校の生徒の強みであるので，さらに意識を高めていきたい。

6 礼儀正しさ

保護者	お子さんは、元気なあいさつや場に応じた言葉遣いができている。
生徒	元気なあいさつや場に応じた言葉遣いができている。
教職員	生徒の手本となるあいさつや言葉遣いを心がけ、生徒の指導にあたった。

昨年度の結果と比較し「とてもそう思う」と回答した教職員の割合は16%増加した。しかし，生徒や保護者の「とてもそう思う」と回答した割合は減少している。学校だけでなく，いつでもどこでも元気なあいさつや場に応じた言葉遣いができるように家庭と連携して指導していきたい。

7 学習指導の充実

保護者	学校は、生徒が学習内容を理解できるよう工夫した授業を実践している。
生徒	先生は、分かりやすい授業を行っている。
教職員	生徒にとって分かりやすく主体的に取り組むことができるよう、授業の工夫・改善を図った。

「とてもそう思う」と回答した生徒が昨年度より3%，教職員は4%増加した。今年度より「学びに向かう力」をテーマに全職員で研修を行い授業改善に取り組んできたことが，教職員や生徒の意識を高める結果となった。しかし，保護者の回答結果については「とてもそう思う」が3%減少し「全く思わない」も保護者で1%，生徒で2%いることから学習指導に対して満足していないことが分かった。理解が不十分な生徒への個別指導や補習指導などに取り組む必要がある。

8 子どもの人格の尊重

保護者	学校は、生徒の人格を尊重し指導にあたっている。
生徒	先生は、生徒の人格を尊重して指導にあたっている。
教職員	生徒の人格を尊重して指導にあたった。

今年度の重点である「高い人権意識」について，教職員は常に意識して指導にあたることができ「とてもそう思う」が6%増加し，生徒も「とてもそう思う」が4%増加している。しかし，保護者は「とてもそう思う」が2%減少している。さらに「そうは思わない」が生徒で6%，保護者で9%いることから「人格を尊重されていない」と感じている生徒や保護者が少数ではあるがいることがわかる。指導にあたっては人格を尊重した言動について，より一層注意していかなければならない。

9 いじめのない学校づくり

保護者	学校は、いじめのない学校づくりに努めている。
生徒	先生は、いじめのない学校にしようとしている。
教職員	いじめを見逃さないよう心がけ、いじめを「しない・させない・許さない」学校の実現に向けて取り組んだ。

「とてもそう思う」と回答した教職員は9%増加し、生徒も3%増加している。「いじめのない学校づくり」に教師と生徒が一体となって取り組んでいることが分かる。しかし、保護者は「とてもそう思う」が9%減少している。さらに「そうは思わない」が生徒で6%、保護者で9%いることから、取り組みが十分であるとは言えない。学校の取り組みを家庭にも伝え、協力を得ながら進めていくことが必要である。

10 体罰のない学校づくり

保護者	学校は、体罰のない学校にしようとしている。
生徒	先生は、体罰のない学校にしようとしている。
教職員	体罰や暴言のない指導を心がけ、「体罰0の学校」の実現に向けて取り組んだ。

「とてもそう思う」と回答した教職員は10%増加し、「体罰0の学校」の実現に向けて取り組んでいる。しかし、保護者は「とてもそう思う」が3%減少している。さらに「そうは思わない」が生徒で4%、保護者で3%いることから、取り組みが十分であるとは言えない。生徒や保護者の気持ちを考えた言葉遣いや冷静な指導に気をつける必要がある。

11 教育相談の充実

保護者	学校は、生徒や保護者の相談に親身になって対応している。
生徒	先生は、生徒の相談に親身になって応じている。
教職員	生徒や保護者と相談（連携）する時間を積極的にもち、相談には親身になって応じた。

「とてもそう思う」と回答した教職員は11%増加し、生徒も「とてもそう思う」が2%、「そう思う」が2%増加している。教育相談が充実してきていることが分かる。しかし、保護者は「とてもそう思う」が6%減少している。さらに「そうは思わない」が生徒で7%、保護者で8%いることから、取り組みが十分であるとは言えない。一人一人に寄り添った親身になった対応に、より一層努める必要がある。

12 生徒主体の学校行事

保護者	学校では、生徒が中心となった学校行事が行われている。
生徒	先生は、生徒が中心になって行う学校行事にしようとしている。
教職員	学校行事の運営には、生徒が主体的に関われるよう指導した。

今年度重点的に取り組んできた生徒主体の学校行事への取り組みについては、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒、保護者ともに96%と高い評価が得られた。生徒の主体性を高め、充実感や自己有用感をもたせるために、さらに取り組んでいきたい。

13 キャリア教育の推進

保護者	学校は、生徒の進路選択や将来の生き方について、必要な情報を提供している。
生徒	先生は、進路や将来の職業選択に必要な情報を提供している。
教職員	生徒の進路選択やキャリア発達に関しての適切な情報を提供した。

本校は昨年度まで2年間「キャリア教育の推進」に取り組んできた結果として一定の成果が見られたが、今年度は教職員の「とてもそう思う」が9%減少し、キャリア教育への意識が低下したことが分かる。自らの将来に対する不安をもつ生徒や、目標を見いだせない生徒も見られることから、引き続き一人一人の実態に応じた取組を推進していく必要がある。

14 楽しい学校生活

保護者	学校は、生徒が楽しく学校生活を送れるよう努力している。
生徒	先生は、生徒が楽しく学校生活を送れるよう努力している。
教職員	生徒が楽しく学校生活を送るために努力した。

「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒93%、保護者94%と高い評価が得られた。しかし「そうは思わない」と回答した生徒、保護者ともに6%いることから、一人一人の実態に応じた対応で本校の課題である「不登校・長期欠席生徒の未然防止」につなげていきたい。

15 病気やけがの対応

保護者	学校は、生徒がケガや病気をしたときの対応を適切にしている。
生徒	先生は、生徒がケガや病気をしたとき、適切に対応している。
教職員	生徒がケガや病気をしたとき、適切に対応した。

「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒97%、保護者94%と高い評価が得られた。しかし「そうは思わない」と回答した生徒が3%、保護者も6%いることから、一人一人の容態に応じたきめ細かい対応で「安心して信頼される学校づくり」につなげていきたい。

16 安全指導の充実

保護者	学校は、生徒の安全確保に努力している。
生徒	先生は、生徒が安全に生活できるよう指導している。
教職員	生徒が安全に生活できるよう、繰り返し指導をした。

「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒97%、保護者99%と高い評価が得られた。しかし「そうは思わない」と回答した生徒、保護者ともに2%いることから、状況に応じたきめ細かい指導で「安全・安心な学校づくり」につなげていきたい。さらに、自らの安全確保に対する自己管理能力の育成にも力を入れていきたい。

17 部活動の充実

保護者	学校は、部活動の指導を熱心に行っている。
生徒	先生は、部活動を熱心に指導している。
教職員	部活動の指導を熱心に行い、生徒の主体性が向上するよう工夫して指導した。

「とてもそう思う」と回答した教職員は18%減少し、生徒、保護者の回答も同じように減少している。さらに「そう思わない」「全く思わない」の回答を合わせると、生徒が9%、保護者が15%おり課題である。保護者の自由記述においても部活動の改善を要望する内容が見られた。来年度に向け、生徒・保護者・教職員が満足感の得られる部活動になるよう努力していく必要がある。

18 校内環境の整備

保護者	学校は、学習の場としてふさわしい環境づくりに努めている。
生徒	麻生中は、校内の環境が整備されていて生活しやすい。
教職員	学習の場として適した校内環境にするために、その整備に取り組んだ。

「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒98%、保護者97%と高い評価が得られた。よい環境の中で生徒が集中して学習に取り組んだり思いっきり部活動に励んだりできるように、引き続き環境整備に努めていきたい。

19 開かれた学校づくり

保護者	学校は、教育方針や教育活動、生徒の様子を分かりやすく伝えている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより 等)
生徒	麻生中の生徒の様子が外部に紹介されるのを楽しみにしている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)
教職員	生徒の様子を外部に積極的に紹介している。 (ホームページ・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者の割合は93%と高く、昨年度同様、教職員による毎日のホームページ更新や各種だより等積極的な情報公開が評価されていると考えられる。

しかし、生徒は77%と高くない。引き続き、各学級や学年で発行している学級便り・学年だよりの内容をよりよくしていくことで、生徒が楽しみに待つものにしていくことや、より生徒の日常の活動を紹介していくことで、公平性をもった内容にしていく必要がある。

20 充実した学校生活

保護者	麻生中学校に入学させてよかったと思っている。
生徒	麻生中に入学してよかったと思っている。
教職員	本校で勤務してよかったと思っている。

「麻生中学校に入学してよかった」と回答している生徒の割合は、「とてもそう思う」「そう思う」合わせて95%、保護者は97%と高い数値である。しかし「そうは思わない」「全く思わない」と回答している生徒も5%、保護者も3%いる。生徒の学校生活への満足感や、学校・学年・学級・部活動等への所属感を高める取組を工夫していかなければならない。